

# 令和6年度大分県立特別支援学校第三者評価【評価書】

学校名	大分県立由布支援学校		
重点項目	評価項目	評価の観点	評価
学校の組織運営	1 校長のリーダーシップ	* 社会のニーズ等を踏まえた学校経営ビジョンの設定 * 学校目標、学校運営計画の適切な設定と教職員の共通理解 * 的確・適切なリーダーシップの発揮、教職員からの信頼	校長はリーダーシップを発揮して、運営方針等を明確にし、時代のニーズに沿った改善に取り組んでいる。ミドルリーダーをはじめ教職員が共通の理念を理解し、積極的に改善しようとする姿が見られ、取組の成果が出始めている。
	2 組織的運営・責任体制	* 教育目標、学校運営計画との一致 * 組織的な運営・責任体制の整備、校務分掌の機能 * 幼・小・中・高の一貫性のある指導体制の整備	ミドルリーダーが職責を理解し、分掌主任等の役割分担及び連携が図られており、積極的により学校・よい教育を目指そうとする姿勢が明確であったことは評価できる。キャリア・ノートの作成と活用を通して、一貫性のある指導を目指すという共通理解が図られている。
	3 服務監督・危機管理体制	* 内規、危機管理マニュアル等の適切な整備 * 事件・事故発生時に迅速に対応するための実効性のある訓練や研修の実施 * ヒヤリハット報告（医療的ケアを含む）の迅速な情報共有体制の整備	緊急時対応訓練等が適切に行われている。ヒヤリハットについて職員朝礼等で共有する時間を取り、情報共有の徹底が図られていることは評価できる。
	4 家庭・地域との連携、情報提供	* 幼児児童生徒及び保護者の満足度や要望を把握する取組 * 学校ホームページの活用、学校便りの発行等による情報の伝達・公開の取組 * 地域・企業・関係機関と連携・協働した取組	ホームページ等を通して教育活動を公開し、キャリア・ノートを保護者との面談に活用している。地域防災会議の開催や児童養護施設等との密な情報共有など地域との連携を積極的に深めようとする姿勢は評価できる。
	5 センターの機能	* 小・中学校等の要請に応じた巡回相談等への積極的取組 * 特別支援教育のセンターとしての特色ある取組	巡回相談を実施していることは確認できたが、今後に向けての人材育成に期待したい。
学習指導	1 授業	* 一人一人の指導目標・方法の共通理解に基づいた実践 * チーム・ティーチングのよさを生かした指導の実践 * 学習効果を高めるための外部専門家との連携等の工夫 * 幼児児童生徒の自主的・主体的な学習への取組	チーム・ティーチングについて課題意識をもち研修を実施しているので、教師の役割・目標の共通理解が図られることに期待したい。キャリア・ノートの活用を通して、児童生徒の「なりたい自分」を大切にしており、児童生徒の関心を引き付ける指導が行われている。
	2 指導、支援のための計画の作成と活用	* 本人・保護者のニーズの把握、PDCAサイクルによる指導改善	保護者へのアンケートを実施しており、保護者との連携に向けた取組を行っている。個別の教育支援計画の資料に合理的配慮を記入し、指導に結び付ける取組を行っているため、今後指導の見直しにつながることに期待したい。
	3 授業研究・授業改善	* 計画的な授業研究の実施等による、組織的な授業改善への取組 * 専門性向上のための積極的取組、専門性の高い授業実践	教科別の指導の授業研究を通して、組織的な授業改善への取組が行われている。主幹教諭や研究主任がきめ細やかなフォローを行い、教職員の授業力向上に務めていることは評価できる。
職業教育及び進路指導	1 進路指導	* 組織的なキャリア教育（進路指導）への取組 * 本人・保護者の進路希望の把握、きめ細かい進路指導 * 定期的な職場訪問等による状況把握、定着支援	キャリア・ノートを活用することで、保護者との対話の機会を増やし、学校全体で組織的なキャリア教育を行っていることは評価できる。長期休業中に教職員全員での職場訪問を行うなど、組織的な定着支援が行われている。
	2 職場開拓・就業体験の機会の確保	* 福祉・労働等の関係機関との情報共有、連携 * 実習先、就労先等の開拓に関する積極的取組 * 作業学習等の学習の工夫・改善への取組 * 地域や産業界等の協力等による就業体験の充実	支援会議等を通して、関係機関との情報共有が図られており、地元の企業の実態を的確にとらえた職場開拓が行われている。教科中心の教育課程への変更に伴い、授業改善を行う姿勢は見られるが、職業に関する学習については目的の見直し等、今後の改善に期待したい。
豊かな心・健やかな体の育成	1 生徒指導	* 幼児児童生徒理解のため保護者や関係機関と連携 * 障がいの状態等を共通理解し、組織的な生徒指導の取組 * 情報モラル等、社会生活に必要な課題に対する適切な対応	児童生徒の情報共有について関係機関との連携が図られている。学会以外でもICTを活用した日常的な情報共有に努めている。今後は情報モラルに対する危機管理について更なる対応が望まれる。
	2 教育相談	* 専門的な立場のスクールカウンセラー等との連携 * 教育相談等に関する知識習得や技能向上に向けた取組	スクールカウンセラー等、外部の専門家との連携が図られており、問題行動等の理解促進がなされている。
	3 特別活動	* 学校、地域の実態等に即した学校行事、児童生徒会活動等の取組 * 交流及び共同学習への積極的取組	近隣の学校や居住地の学校等との交流及び共同学習に取り組んでいる。多くの支援者の協力を得ることで50周年行事を行うことができた。
	4 安全管理・医療的ケア	* 幼児児童生徒の健康管理のための取組 * 教職員・幼児児童生徒が安全に行動できる取組や環境作り * 校内の医療的ケア実施体制の整備	養護教諭が中心的な役割を担い、児童生徒の健康管理の取組が行われている。医療的ケアについては、包括的な手順書以外にも個別の対応マニュアルを作成し、対応していることは評価できる。
総合評価	校長のリーダーシップのもと、経験豊富なミドルリーダーを中心に学校全体で充実した教育活動が展開されている。校長がミドルリーダーのロールモデルになり、ミドルリーダーは他の教職員のロールモデルになり、日々の業務が人材育成につながっていることが感じられた。「なりたい自分」という、児童生徒自身にもわかりやすい言葉に集約させた重点目標を設定し、教職員の共通理解が図られている。特にキャリア・ノートの作成・活用は、児童生徒のキャリア発達を言語化・視覚化し、対話による自己評価力を育成することが期待される。通知表の大幅な変更を行い、保護者とのコミュニケーションツールだけでなく、全教職員で児童生徒の共通理解を深めるためのツールとしても活用が始められており、学校全体が「学ぶ組織」となりつつあることを感じた。今後は、資質・能力を育成するための学習活動が鍵となるが、内容を伝える・教え込むような活動ではなく、児童生徒が、なぜ・なんのために学ぶのかを考え探究し、学びを実感する活動の実現に期待したい。		
校長コメント	学校運営を行うに当たって、教頭をはじめ各ミドルリーダーの責任感と実行力に負う面が大きかった。大切なことや基本的な考え方は折に触れて伝えてきたが、それを実際の目に見える形にしていくのは本校に勤務する一人一人であり、伝えたことを誠実に受け止めてくれた結果である。しかし、課題はまだたくさんある。指摘のあった情報モラルに係る系統的な指導の必要性、チーム・ティーチングのあり方の改善、高等部『職業』の作業学習における課題意識の醸成等については、喫緊の課題ととらえている。更に、授業改善においては、単元・題材という時間のまとまりの中で必要な資質・能力を育成するため、単元・題材の構成をより深く考えマネジメントしていくことが必要である。次年度以降、これらに取り組むことで「なりたい自分」になるための児童生徒の資質・能力の育成、併せて、これからの特別支援教育を担う教員の育成につなげていきたいと考える。		